新潟市は明治22年の市制施行以来、人口81万人を擁する都市へと発展してきました。平成19年4月1日、本州日本海側初の政令指定都市として新たにスタートしました。

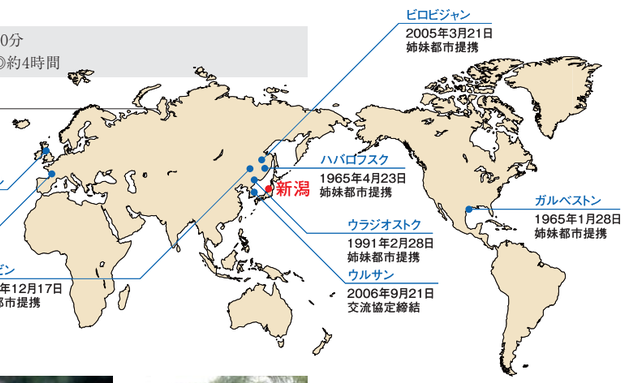
□基本データ

人　口／813,847人（300,139世帯）平成17年国勢調査確定値
総面積／726.1㎢（東西42.4㎞　南北34.9㎞）
位　置／極東:東経139度16分00秒　極西:東経138度47分03秒
極南:北緯37度40分45秒　極北:北緯37度59分36秒
新潟市とほぼ同じ緯度には、サンフランシスコ、天津、リスボンといった都市がある。
気　温／年間平均14.4℃（最高36.5℃、最低-1.8℃）（平成19年）
降水量／年間1,748.5㎜（平成19年）

□アクセス 2008年4月現在

東　京	JR●〈上越新幹線〉東京～新潟◎約2時間 高速道路●〈関越自動車道〉練馬I.C～長岡JCT〈北陸自動車道〉新潟西I.C◎約3時間40分
大　阪	飛行機●大阪（伊丹）～新潟◎約1時間10分 JR●新幹線で〈東海道新幹線〉新大阪～東京〈上越新幹線〉東京～新潟◎約5時間 ●特急で〈北陸本線特急＞大阪～新潟◎約6時間40分 高速道路●〈名神高速道路〉吹田I.C～米原JCT〈北陸自動車道〉新潟西I.C◎約7時間
名古屋	飛行機●名古屋～新潟◎約1時間 JR●〈東海道新幹線〉名古屋～東京〈上越新幹線〉東京～新潟◎約3時間40分 高速道路●〈東名高速道路〉名古屋I.C～小牧JCT〈中央自動車道〉岡谷JCT〈長野自動車道〉 更埴JCT〈上信越自動車道〉上越JCT〈北陸自動車道〉新潟西I.C◎約6時間
仙　台	JR●〈東北新幹線〉仙台～大宮〈上越新幹線〉大宮～新潟◎約3時間40分 高速道路●〈東北自動車道〉仙台宮城I.C～郡山JCT〈磐越自動車道〉新潟中央I.C◎約3時間
沖　縄	飛行機●沖縄～新潟◎約2時間25分
福　岡	飛行機●福岡～新潟◎約1時間40分
金　沢	JR●〈北陸本線特急〉金沢～新潟◎約3時間30分 高速道路●〈北陸自動車道〉金沢東I.C～新潟西I.C◎約4時間
北海道	飛行機●札幌～新潟◎約1時間15分

□新潟市と交流のある都市



市章

港のしるし錨と中央の五をもって、安政五年通商条約により指定された五港を意味し、これに雪環を頂かせて五港の一つ新潟をあらわします。

新潟市民のシンボルマーク

いつの時代も変わらない新潟の大地を包む雄大な夕日をもとに、大小の赤い月の形はアジア大陸と新潟を、白い扇の形は日本海を表現、マーク全体でアジア大陸の国々をはじめとする海外へ向かう新潟を表しています。

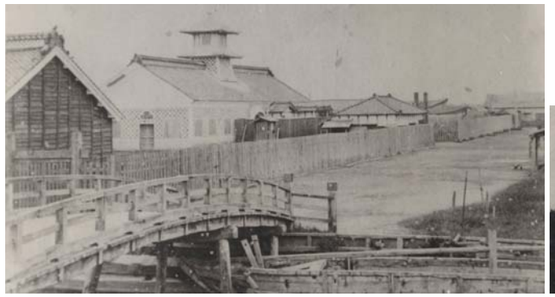
市の花　チューリップ

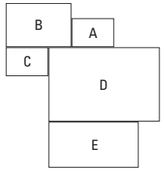
新潟市は、球根・切り花とも、チューリップの出荷量は国内トップクラスを誇ります。チューリップ愛唱歌を制定するなど、市民に親しまれている花です。

市の木　柳

市の中心部には昭和30年代まで堀が縦横に流れており、ほとりに柳が植えられていました。堀が埋め立てられた現在も、柳が当時の面影をしのばせます。

みなとまち新潟の変遷





A 船が並ぶ明治期の信濃川河口
Ships at the mouth of the Shinano River during the Meiji era (late 19th - early 20th century)

B 明治初期の新潟税関
The Niigata Customs House in the early Meiji period (late 19th century)

C ニシンやサケ・マス漁の出漁帆船が並ぶ新潟港
Herring, salmon, and trout fishing boats line up at Niigata Port.

D 昭和初期の県営埠頭（現在の新潟西港）
Niigata Prefectural Pier (now Niigata West Port) in the early Showa era (early to mid-20th century)

E 新潟と首都圏を結ぶ上越新幹線の開業
The Joetsu Shinkansen bullet train line linking Niigata with metropolitan Tokyo is opened.

新潟市歴史博物館「みなとぴあ」。新潟市の歴史・文化を今に伝える。敷地内には、明治時代の市役所庁舎の外観を模した本館のほか、旧新潟税関がある。

新潟港は、安政の修好通商条約で開港五港の一つに挙げられ、明治元年に開港し、その後、北洋漁業の基地として発展しました。

水深が浅いという欠点を克服し、港湾都市への発展を目指して、大正末には、近代的な埠頭（県営埠頭）が整備されます。大型船が着岸し、貨物列車が乗り入れる港となりました。

昭和六年に上越線が全通すると、首都圏を結ぶ新潟港の優位性は高まり、石炭などの軍需物資を荷揚げし、京浜地帯へと移送する基地となりました。

高度成長期には、国土開発の一つとして新潟東港が建設され、石油備蓄基地・国際コンテナ埠頭などが整備されるとともに、新潟西港には、フェリー埠頭が建設されました。